

橋村りかと声なき声をつむぐ会（後援会） ニュース

第27号 2026年8月発行



「誰の命もあきらめない。」

現場から創る『命を守る政治』

—8月6日 益城町・平和と防災を語る街頭報告より

【巻頭メッセージ】

市民の命と暮らしを最優先にする政治へ

8月6日午前8時15分。激しいセミの鳴き声が響く益城町の街頭で、橋村りかさんは集まった市民の皆さんとともに静かに黙祷を捧げました。広島に原爆が投下されてから81年目を迎えたこの日、橋村さんが語ったのは、平和への強い願いと、先日の地震で再び試練に直面している熊本の「現場のリアルな声」でした。

党派を超えて「一人ひとりの命が大切にされる社会を作りたい」と訴え続ける橋村りかさん。その温かくも力強い言葉の要旨を、後援会ニュースとして皆様にお届けいたします。

■ 演説要旨・ハイライト

1. 10年前の原点を胸に

——被災者の痛みに

どこまでも寄り添う

10年前の熊本地震で自らも自宅が全壊し、家族で途方に暮れた経験を持つ橋村さん。先日の地震以降、酷暑の中で厳しい避難生活を余儀なくされている被災者の現状に胸を痛めています。

「10年前の教訓を生かし、二度とこん

な苦しい思いをさせない社会にすると誓ったはずでした。しかし、避難所の環境整備や被災者支援はまだ十分とは言えません。上空から見下ろすのではなく、地上で今まさに懸命に生きている人々の目線に立った支援策こそが必要ですよ」と、現場に根ざした政治の必要性を強く訴えました。

2. 「命を救う力」を

世界と地域の誇りに

橋村さんは、これからの日本のあり方として「防災・救助への特化」を提案しています。

「10年前の地震の際、温かいお風呂や食事を届けてくれた自衛隊の皆さんの姿に心から感謝しました。だからこそ、その大切な命を争いに差し出すのではなく、日本国内はもちろん、世界中で災害に苦しむ人々の命を救う『防災の象徴』として力を発揮できる国を目指したい。人を傷つけるためではなく、人を活かすために技術と真心を注ぐ国であってほしいのです」



3.「命の盾」にされない、 心豊かな地域づくり

軍事費の拡大や抑止力ばかりが強調される風潮に対し、橋村さんは「私たちが住む熊本には、多くの暮らしがあり、命があります。有事の際に市民が危険に晒されるような構造ではなく、お互いの命を尊重し合える心豊かな社会を作りたい」と述べ、足元から平和を育む重要性を強調しました。

【現場の活動報告】

演説のあと、すぐに被災現場へ

演説を終えた橋村さんは、休む間もなく、宇城市で被災された子どもたちの施設の支援へ出発しました。

「行政の手が届きにくい隙間で、自分の日常を少しずつ削りながら助け合っている地域の方々がたくさんいます。こうした温かい市民の思いに応え、支えるのが政治の役目です」と語る橋村さん。言葉だけでなく、常に足を使って動く姿に、多くの地域住民から温かい声援が寄せられています。

【後援会からのお願い】

橋村りかさんと一緒に、
「命を守る輪」を広げませんか？

橋村りかさんの活動は、特定の政党のためだけのものではありません。益城町で子どもを育て、地域の痛みを誰よりも知る「一人の市民・母親・当事者」として、誰もが安心して暮らせる熊本、日本を目指す草の根の運動です。

この「命を守る政治」を推し進めるためには、党派や立場を超えた、地域の皆さ

まお一人おひとりの力が必要です。

▼ 私たちにできることご協力のお願い

『後援会だより』のシェア・ポスティング：ご近所やご友人へ橋村さんの思いをお伝えください。

ボランティア・対話集会へのご参加：地域の困りごとやご意見をぜひお聞かせください。

後援会へのご入会：橋村さんの活動を継続的に支える仲間を募集しています。



橋村りかは10年前の熊本地震で、障害当事者団体による温かい支援に我が子とともに救われました。制度の谷間で困っている方に届くよう、今回、熊本障害フォーラム(29の障害者団体・家族会)によって開設された「令和8年熊本地震 被災地障害者センター」のSOS窓口をご紹介します。

障害のある方へ

支援のお知らせ

災害でお困りの方は
下記SOS電話へご連絡ください。

身体、知的、発達、精神、障害など、障害の種類は問いません

SOS

070-5475-1100

このセンターは、令和8年熊本地震を受け、熊本にある様々な障害者団体・福祉団体が集まった熊本障害フォーラムにより設立されたものです。

これまで、被災地支援を続けてきたゆめ基金や職員を助ける会などの支援と日本障害フォーラム(JDF)のバックアップを受け、八代市に拠点を移して活動をしています。

令和8年熊本地震 被災地障害者センター

〒866-0802 熊本県八代市砂見町2377-3(とら太の会内)
電話受付 070-5475-1100
(月曜日から金曜日まで、午前9時～午後5時)
メール kisa2026news@gmail.com
ホームページ https://sites.google.com/view/for-people-with-disabilities